

科目名	政治理論	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	個人の自由と社会全体の利益とをどう折り合いつけるかは、政治学が考え続けてきた最も大きな論点の一つです。個人の権利や自由が、社会を破壊しないか。逆に社会や公共を強調することが、個人の自由を押しつぶすことにならないか——。もちろんこの講義で今すぐ解答を示すことはできませんが、まずはこれまでの思想家たちの議論を整理することで、問題の所在を明らかにし、考えるきっかけを提供したいと思います。
	到達目標	ロックやスミスから、ニューリベラリズムやハイエクまで、自由をめぐる政治思想や理論の系譜を把握し、概要を把握するのが、この講義の目的です。講義内容の性格上、やや難解な部分も含まれますが、できるだけ分かりやすい説明を心がけますので、学生の皆さんも、毎回の出席や丁寧なノート作成など、積極的な取り組みを心がけてください。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 夜警国家から福祉国家へ (3) ロックの政治理論 (4) スミスの思想 (5) ベンサムの功利主義① (6) ベンサムの功利主義② (7) J・S・ミルの思想① (8) J・S・ミルの思想② (9) 社会有機体説 (10) ニューリベラリズムとフェビアン協会① (11) ニューリベラリズムとフェビアン協会② (12) ハイエクの批判① (13) ハイエクの批判② (14) パーリンの自由論 (15) 結論 (試験について)	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】川崎修、杉田敦編『現代政治理論』有斐閣、2006年 【参】岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年 佐々木毅、鷲見誠一、杉田敦編『西洋政治思想史』北樹出版、1995年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	